

# 戦後の反発 国民党に

## 台湾をめぐる歴史

1895年	日清戦争後の下関条約で、台湾が清朝から日本に割譲される。台湾総督府を設置
1937	日中が全面戦争突入。台湾で皇民化運動開始
1945	中華民国・南京国民政府軍が台湾に上陸。行政権が中華民国に引き渡される
1947	新体制に不満を持つ民衆による暴動が発端で二・二八事件が起きる
1972	日中国交樹立に伴い、日本と台湾が断交する
1979	デモ隊が警官隊と衝突する美麗島事件が起きる。民主化運動が活発になる
1996	台湾初の総統直接選挙で李登輝が総統に選出される
2000	陳水扁が総統に選出される
2008	馬英九が総統に選出される



総統選で陳水扁候補の支持者が集まった「30万人」集会＝高雄市、2000年

様々な地域の歴史を見つめ直すことで、東アジアにおける融和の糸口を探っていくシリーズ「歴史認識の根っこ」。今回は、かつて日本から植民地支配を受けながらも、親日的といわれることの多い台湾の歴史認識について、松田ヒロ子・神戸学院大学准教授に聞きました。

### 台湾の「親日」

## 歴史認識の根っこ



松田ヒロ子  
神戸学院大准教授

まつだ・ひろこ 1976年生まれ。専門は沖縄と台湾の近現代史。著書に『帝国以後の人の移動』（共著、勉誠出版）ほか。

——東アジアでも台湾は特に親日的と言われていますが「台湾は親日的」という言説は、中国や韓国との比較の中で語られることが多い。確かに日本文化を好む哈日族と呼ばれる若者たちはいるし、一方で「日本統治時代はよかった」と懐かしむ年配の人もいる。彼らは「あの時代は治安も良く、学校にも立派な先生が多かった」と話す。こうした言葉の背景には、彼らに多くが、続く国民党の時代にとりわけ苦労したということがある。だが、いくら経験者の発言であっても、彼らが日本統治時代の全容を把握しているわけではない。

——どういふことですか  
今、私たちが当時の話を聞

## 日本統治の評価 今も駆け引き

けるのは、せいぜい1930〜40年代に生まれた台湾人であり、彼らが体験しているのは日本統治の最後の頃だけだからだ。当時は戦時中で「皇民化運動」が推進され、日本と台湾の一体性が強調される傾向にあった。日本支配の50年の間では比較的差別が少なかった時期だったといっている。逆に最初の10年は弾圧も激しく、日本は多くの人の犠牲の上に台湾支配を確立した。その時代を経験し、かつ語れる人は現在はいない。

——歴史認識の形成という点からみた台湾の特徴とは？  
この問題を考えるうえで重要なのは、日本が第2次世界大戦で敗れ、台湾が解放された時点で「台湾国」ができたことだ。台湾が中華民国の一部となる「光復」が行われた。多くの被植民地では、独立戦争時や独立後にその国の正統性をつくりあげていく際に旧宗主国に対する否定的言説が多く生まれるが、台湾ではそのような動きがなかった。

かわって起きたのが二・二八事件だ。この事件は国民党と新体制に不満を持つ民衆が暴動を起こしたものだ。多数の台湾住民が虐殺されるなどした結果、否定的言説は旧宗主国の日本ではなく国民党に向けられることになった。

——日本の台湾支配については、どのような評価がされているのでしょうか  
90年代以降、日本統治時代

を評価し、その時代に近代化が進んだことを認めようという動きが出てきたのは事実だ。ただし、教科書を見る限り、事実が淡々と書かれているだけで、別に日本を褒めたてているわけではない。

一方2008年に馬英九政権が成立して以来、変化も生じている。たとえば「日本統治時代」はかつて「日本占拠時代」と呼ばれたが、近年はこの呼称は使われていなくなった。しかし、総統府は最近、研究者に「日本占拠時代」というかつての呼称を使うように指示した。「占拠」には不当に占領したというニュアンスがある。

——反目的な意識が頭をもたげてきているのでしょうか  
そうではないが、馬政権が推進する中国との近接性を強調する立場からは、台湾の独自性や独自の発展の歴史といったものは、あまりクローズアップされてほしくないのだと思う。日本統治時代は台湾の独自性にかかわる象徴的な時代であり、だからこそこの時代のとらえ方を巡り、駆け引きが続いている。

ただし、台湾の人々にとって懐かしさ、かつ重要なのは、あくまで台湾史の一部としての日本統治時代であり、いまの日本に対する目はおのずと異なるということ、私たちが忘れてはならないだろう。

（聞き手 編集委員・宮代栄一）

◇「歴史認識の根っこ」は随時掲載します。